

2019 年度

シラバス

岐阜保健大学
看護学部

2019 年度 看護学部 シラバス目次

科目名称	必修 選択	前 後	担当教員	頁
基礎ゼミナール	必修	前	臼井キミカ、石井英子、山本澄子、内藤直子、西 牟田祐美子、森 裕志、栃本千鶴、川北美枝子、 永坂和子、高久道子、中谷こずえ、野村浩、 原田英子、楳田恵子	3
情報科学	必修	前	高久道子、市川誠一	5
基礎統計学	必修	前	高久道子、市川誠一	6
問題解決法	選択	後	西牟田祐美子	8
哲学	選択	前	鷺見コト江	10
英語Ⅰ	必修	前	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak	11
英語Ⅱ	必修	後	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak	12
日本語Ⅰ	必修	前	伊藤亜希子	13
手話	選択	後	尾関裕子	14
自己管理と社会規範	必修	前	稲葉政徳、中谷こずえ、野村浩、石井英子、 内藤直子	15
健康と運動（体育）	必修	後	羽田野正史	17
地域活動と社会貢献	必修	後	市川季夫	19
現代の倫理	必修	前	鷺見コト江	20
心理と行動	選択	後	岩田郁子	21
学習と行動	選択	前	稲葉政徳	22
健康と生活	選択	前	稲葉政徳	23
岐阜県の歴史と文化	選択	後	池田雅志	24
多文化と多様性の理解	必修	前	高久道子、三浦昌子、内藤直子、市川誠一	25
人体構造機能学Ⅰ	必修	前	永井博弼	27
人体構造機能学Ⅱ	必修	後	小萱康德	28
栄養代謝学	必修	前	森裕志	30
人間の生殖と発達	選択	後	野田みや子	31
疾病治療論Ⅰ（成人A）	必修	後	河田美紀	32
疾病治療論Ⅱ（成人B）	必修	後	河田美紀、河田好泰	33
保健統計学	必修	後	市川誠一	34
保健医療福祉行政論	必修	後	原田裕子	35
看護学概論	必修	前	山本澄子	37
看護援助方法論Ⅰ	必修	前	山本澄子	39
看護援助方法論Ⅱ	必修	後	山本澄子	41
看護援助方法論Ⅲ	必修	後	山本澄子	43

科目名称	必修 選択	前 後	担当教員	頁
看護理論	必修	後	山本澄子、三浦昌子、内藤直子、野田みや子、 臼井キミカ	44
看護倫理	必修	前	川北美枝子、内藤直子	45
基礎看護学実習Ⅰ	必修	前	山本澄子、野田みや子、高木繁子、石田美和、 森口信子、野村浩、楳田恵子	47

科目区分	基本教育科目-思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	基礎ゼミナール				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッションナリズム	
担当教員	臼井キミカ、石井英子、山本澄子、内藤直子、西牟田祐美子、森 裕志、栃本千鶴、川北美枝子、永坂和子、高久道子、中谷こずえ、野村浩、原田英子、楳田恵子				多職種連携	

講義目的

本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・保健・看護のトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルズを修得し、看護学に対する学びの意欲を高める。

授業内容

- 大学で学ぶ目的を理解し、大学生としての基本的な知識・技術や態度、学修方法を理解する。
 - 大学生生活・社会生活における基本的なマナーを学修する
 - レポートの書き方を学修する
 - プレゼンテーション等での資料作成に必要な PC 操作を学修する
- 7 人程度の少人数の学生グループと教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発すると共に、学生相互の親睦と連帯意識を高めるための態度を身につける。
- 保健・医療・看護に関連するテーマを用いた少人数グループでの討論を通して、関心あるテーマへの理解を深める。
- 自分の考えを人に伝える工夫ができ、文献検索やグループ討論を通して各自の考えとは異なる意見を受け止め、さらに自分の考えを深めることができる。
- この科目での学びをレポートにまとめることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

- この科目は本学での導入科目であり、主体的に学修する態度を身につけるためにも積極的に参加する。
- 保健・医療・看護に関連するテーマは、学生の希望を優先するが、人数のアンバランスが生じたときには各担当教員の指示に従う。
- この単位を修得するためには、授業時間以外に 30 時間程度の学修が必要である。
- グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行う。

教材

テキスト 知へのステップ 第4版：学習技術研修会編、くろしお出版、2015、1,944 円

参考図書 スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための 25 のスキル：吉原恵子他、実教出版、2015、1,296 円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、自己紹介 スタディ・スキルとは (担当：臼井)	第1章 (pp3～14) を読み、大学生として何をどのように学修するのかを考え、2 分程度の自己紹介文を作成して演習に参加する。
2	大学生生活、社会生活におけるマナー (担当：臼井)	第2章 (pp17～28) を読み、講義の受講方法を理解する。教員とのアポイントの取り方、メールでの連絡方法、研究室訪問の基本的マナー等を理解する。
3	保健・医療・看護に関連するテーマの決定 (担当：臼井)	第3章 (pp29～41) を読み、興味・関心のあるテーマについて自己学習し、箇条書きまたは 200 字程度にまとめて演習に参加する。関心のあるテーマによって 7 人程度のグループ編成 (14 グループ) を行う。4 回目以降のゼミは基本的には各グループごとでの演習とする。

4	図書館の利用方法、文献検索方法 (1) (各担当教員)	第 5 章 (pp57～75) : 図書館の利用方法、第 6 章 (pp76～101) : 文献検索方法を理解して演習に参加する。 なお、人数の関係から図書館グループと情報処理室グループの 2 つに分かれて進める (第 4 回目と第 5 回目は場所を交代して演習を行う。
5	図書館の利用方法、文献検索方法 (2) (各担当教員)	
6 か ら 11	1. 文献検索・文献の整理 2. 文献の整理・要約 3. ワードプロソフトの活用 4. レポートの作成 (形式、記載内容、文献引用のルール他) 5. 表計算ソフトの活用 6. プレゼンテーションソフトの活用 7. カンファレンスの進め方 (各担当教員)	各担当教員単位のグループに分かれて、「選択した保健・医療・看護に関連するテーマ」について、ゼミナール形式でディスカッションを重ねる。 学生が主体となって各グループで学びたいテーマを決め、そのテーマについて深く探求し、その学びをまとめる。 1. レポートの作成の基本 2. ワードプロソフト (Word) による文書作成 3. 表計算ソフト (Excel) との連携 4. プレゼンテーションの方法を理解する 5. プレゼンテーションソフト (Power Point) の活用
12	発表準備 (各担当教員)	第 11 章「プレゼンテーションの基本スキル」を読みプレゼンテーション資料作成に必要な基本操作を理解し、実践する。
13	発表 (1) (全担当教員)	第 12 章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
14	発表 (2) (全担当教員)	第 12 章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
15	発表 (3) (全担当教員)	第 12 章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を理解し、各グループの学びを発表する。司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。 この科目全体を通して、学んだことを A4 用紙 2 枚程度にまとめたレポートを提出する。
評価方法 および評価基準		
授業への参加状況 (文献検索、討論、まとめ、発表) : 50%、課題レポート 50%により評価する。 S (100～90 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 A (89～80 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に積極的に取り組むことができる。 B (79～70 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術が不十分な箇所はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。 C (69～60 点) : 大学で学修していく上で必要な基礎的知識・技術について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	情報科学				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	高久道子、市川誠一				多職種連携	

講義目的

汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上する。リスク管理や情報倫理を理解しつつインターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を習得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。PCを用いた情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT）の修得を基本的な目的とする。

授業内容

情報処理演習室でコンピューター（PC）の使い方を説明し、受講生は実際にPCを使用しながら文章作成ソフト（Word）による文書やレポートの作成、表計算ソフト（Excel）を用いた表計算やデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Power Point）を使ったスライド作成を演習する。保健統計や医学検査等のデータを活用して集計・グラフ作成に取り組み、各人がレポート課題を完成させることを目指す。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義ごとに課題を提示するので、前期中に課題を完成し、提出すること。

教材

テキスト：小林美亜「ナースのための個人情報保護法 臨床でぶつかる疑問 50」、メディカ出版、648円＋税
参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション：演習室の使い方、授業の進め方などの説明（高久）	本学での情報処理に関するガイダンスを行う。 演習室のコンピューターやプリンター、インターネットの利用、メールの送信方法について理解し、習得する。
2	看護において保健医療情報を取り扱うことについて 情報倫理・情報リテラシーについて（高久）	看護師として個人情報、患者データ等を取り扱う上での倫理や情報リテラシーについて学び理解する。 SNSやインターネット上で氾濫する情報の整理・処理、個人情報の保護、情報倫理等、情報リテラシーについて学ぶ。 （予習・復習：テキストの閲読）
3	コンピューターとネットワークの基本機能と操作（高久）	コンピューターのオペレーションシステム（OS）やインターネットの仕組み等、基本機能と操作を理解・習得する。
4	ワープロソフトの演習1（高久）	Wordの基本機能と操作を学習する。 日本語や英語で文字入力を行い、図や表の挿入等基本操作を用いて文書を作成し、印刷、課題提出までの演習を行う。
5	ワープロソフトの演習2（高久）	
6	ワープロソフトの演習3（高久）	
7	表計算ソフトの演習1（市川・高久）	Excelの基本機能と操作を習得する。 保健医療情報データを収集し、Excel上で表を作成、グラフの作成、範囲を選択して印刷等、基本操作を習得する。 自ら収集した保健医療情報データをもとに、Excel関数を用いて統計量の計算を習得する。計算結果からグラフを作成し、課題を作成、印刷までの基本操作を習得する。
8	表計算ソフトの演習2（市川・高久）	
9	表計算ソフトの演習3（市川・高久）	
10	表計算ソフトの演習4（市川・高久）	
11	表計算ソフトの演習5（市川・高久）	
12	プレゼンテーションソフトの演習1（高久）	Power Pointの基本機能と操作を習得する。 自ら収集した保健医療情報データをもとに、アニメーション機能や特殊効果などを使ってスライド（文章・表・グラフの挿入）を作成する。スライドを課題として印刷、提出する。
13	プレゼンテーションソフトの演習2（高久）	
14	情報科学の演習1（高久）	最終課題。これまでの演習で習得した技術・知識を応用して、保健医療データを用いた課題に取り組む。Wordを用いてレポートを作成し、印刷して提出する。
15	情報科学の演習2（高久）	

評価方法 および評価基準

欠席は1回につき2点減点30%、テスト20%、課題・レポート提出50%により評価する。
S（100～90点）：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理が十分にできる。
A（89～80点）：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理ができる。
B（79～70点）：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理がほぼできる。
C（69～60点）：情報倫理を理解し、ワード・エクセル・パワーポイントによる情報処理がややできる。
D（60点未満）：Cのレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	基礎統計学				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	高久道子、市川誠一				多職種連携	

講義目的						
統計は地域集団の特徴を把握し活用する学問である。授業では保健統計に焦点をあてて、保健・医療データをより的確に処理する統計学の基礎を身につける。						
授業内容（授業の到達目標）						
保健医療データの統計処理を理解するために必要な基本統計学、保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する比較検定を学習する。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
授業のデータを保存するために各自 USB を用意し、データを管理すること。 この科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。講義配布資料の内容はテキストで確認し、学習すること。講義内で課題を提示するので、前期中に課題を完成し、提出すること。						
教材						
テキスト：高木廣文「ナースのための統計学」医学書院 2200 円+税 参考図書：大木秀一「基本からわかる看護統計学入門」医歯薬出版株式会社 3200 円+税、随時講義プリントの配布						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容			学習課題（予習・復習）		
1	講義の内容 統計学を学ぶ意義			統計を学ぶ意義、グラフの見方や作成における留意点を学ぶ。 *統計学で用いるデータを測定する。 (予習・復習：第1章)		
2	母集団と標本			母集団と標本集団、標本集団を抽出する方法（サンプリング）を学ぶ。 *統計学で用いるデータを測定する。 (予習・復習：第2章)		
3	基本統計量			基本統計量としての平均値、標準偏差、中央値、最頻値、変動係数、外れ値、四分位を学ぶ。(予習・復習：第3章)		
4	データの分布：度数分布とヒストグラム			度数分布、ヒストグラム、正規分布について学ぶ。 (予習・復習：第3章)		
5	統計学において扱う問題：推定と仮説検定			統計学で扱う推定、仮説検定について学ぶ。 信頼度、信頼区間、仮説検定における帰無仮説を学ぶ。 (予習・復習：第3章)		
6	平均値 1) 母集団の推定			平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第3章)		
7	平均値 1) 母集団の推定（演習）			健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いた基本統計量の算出、平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第3章)		
8	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定			標本集団の平均値と母平均を比較する統計方法を学ぶ。 (予習・復習：第3章)		
9	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定（演習）			健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出し、母平均と比較する統計方法を学ぶ。(予習・復習：第3章)		
10	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応が無い場合」			二つの標本平均の比較検定に関する統計方法を学ぶ。「対応が無い場合」の検定を学ぶ。エクセルを用いた検定方法を学ぶ。(予習・復習：第3章)		
11	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応がある場合」			平均値の比較検定のうち、「対応がある場合」の検定を学ぶ。エクセルを用いた検定方法を学ぶ。(予習・復習：第3章)		
12	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定（演習）			健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて「対応がある場合」「対応が無い場合」の検定を学ぶ。(予習・復習：第3章)		
13	相関関係			相関係数の算出や検定方法を学ぶ。健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出、相関図の作成、相関関係の検定を学ぶ。 (予習・復習：第4章)		
14	百分率の比較検定			離散量(百分率等)に関するデータについて、母集団の推定		

		や、カイ二乗検定による標本百分率の比較等の方法を学ぶ。 (予習・復習：第4章)
15	百分率の比較検定（演習）	離散量(百分率等)に関するデータについて、エクセルを用いて、母集団の推定や、カイ二乗検定による標本百分率の比較などの方法を学ぶ。(予習・復習：第4章)
評価方法 および評価基準		
欠席は1回につき2点減点30%、課題・レポート提出70%により評価する。 S (100～90点)：保健医療データに基づく統計的処理について十分に理解している。 A (89～80点)：保健医療データに基づく統計的処理について理解している。 B (79～70点)：保健医療データに基づく統計的処理についてある程度理解している。 C (69～60点)：保健医療データに基づく統計的処理についての基本的な理解をしている。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	問題解決法				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単位数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	西牟田祐美子				多職種連携	

講義目的

現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中において、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。

授業内容

自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っていく中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（学修課題（予習・復習））に示されている内容の学修が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。
2	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。
3	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。
4	アードラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アードラーの考える自己と自己実現を理解する。
5	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。
6	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。
7	まとめ レポート	まとめ、レポート
8	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。
9	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。
10	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。
11	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。
12	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。
13	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。
14	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。
15	まとめ、テスト	

評価方法 および評価基準

筆記テスト 30%、授業への取り組み 65%、レポート 5%

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－思考力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	哲学				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	鷺見コトエ				多職種連携	

講義目的		
西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
授業内容		
フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「人間とは何か」を考えていきたい。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。		
教材		
テキスト		
参考図書：講義中に指示します。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	哲学誕生	哲学とは
2	愛智学としての哲学	愛智学とは
3	哲学と方法	思考方法とは
4	科学と哲学	科学と哲学の違い
5	存在と人間	存在とは
6	現代の宇宙論	宇宙の歴史とは
7	生命の進化	生命とは
8	人類の進化	ホモ・サピエンスとは
9	ベルクソンの人間論	人間とは
10	心的存在者としての人間	心とは
11	エリクソンの人間論	社会的人間とは
12	エリクソンの発達理論	心の発達とは
13	人生とは	人生の目的とは
14	障害とは	障害者と健常者とは
15	医学と看護	看護とは
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10％、レポート40％、最終試験50％により評価する。		
S（100～90点）：学習目標をほぼ完全に達成している。		
A（89～80点）：学習目標を相応に達成している。		
B（79～70点）：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C（69～60点）：学習目標の最低限は満たしている。		
D（60点未満）：Cのレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅰ				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak				多職種連携	

講義目的

グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。

「英語 I」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。

授業内容

英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。

現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。

留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)

積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修 (学修課題 (予習・復習) に示されている内容の学修) が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

テキスト 適宜教材を印刷して渡す。

参考図書

授業計画および学習課題 (予習・復習)

回	内 容	学習課題 (予習・復習)
1	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介の練習
2	発音/スピーキング、リーディング	発音について理解し練習する。
3	リスニング/クラスルームイングリッシュ、歌手に関するリサーチ	英語の歌、歌手について調べる
4	時間、スケジュール	時間の読み方の練習する。
5	プレゼンの準備	文章を覚える/プレゼンの練習する。
6	病氣、ペアワーク	質問に答える/辞書を使う。
7	マインドマップ/病氣、経験したことを書く	クロスワード、病氣の体験についてインタビューの準備をする。
8	リスニング、病氣についてインタビュー、ロールプレイ	リスニングの練習をする。
9	グループワーク、患者さんとの会話	ダイアログ A と B を読む。
10	ペアワーク	ダイアログ A を覚える。
11	ダイアログ	ダイアログ B を覚える。
12	復習/経験を尋ねる	経験を書き出す。
13	プレゼン/スキットを覚える、クイズ	自分のバイトについて書く。
14	復習/夏休みの予定をたてる	それまでに学修したことを単語中心にまとめる。
15	確認テスト	それまでに学修したことを文法中心にまとめる。

評価方法 および評価基準

筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅱ				実践的理解	
配当学年/学期	1 /後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	西牟田祐美子、Keenan、Mandziak				多職種連携	

講義目的

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。

授業内容

英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。
現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学修課題（予習、復習））に示されている内容の学修が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

教材

テキスト 適宜教材を印刷して渡す。
参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	会話、夏休み	スクラップページを作成する。
2	プレゼン	病院実習について書く。
3	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。
4	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。
5	怖い話	怖かった出来事について作文する。
6	ハロウィン	仮定法の練習をする。
7	発音、許可を求める	空欄を埋める
8	アドバイスする	質問文を作る
9	過去について話す	写真を準備する
10	経験についての文章をつくる。	完了形（現在、過去）の文の練習をする。
11	こうであつたら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。
12	リスニング	歌を覚える
13	歌、ダイアログ	カード、手紙を書く。
14	復習	学修したことを単語中心に復習する。
15	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。

評価方法 および評価基準

筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している。

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅰ				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	伊藤亜希子				多職種連携	

講義目的

日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目の目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。

授業内容

日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史の分野から日本語の特徴を概説し、日本語について理解を深める。普段使っている自分たちの言葉について意識を高め、分析を通して運用力を高める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

内容が変わるごとに小レポートを提出する。出席、授業態度、小レポート、期末テストの総合点から評価する。

教材

テキストなし

参考図書『日本語概説』岩波書店

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	日本語概説	配布資料を読み直す、小レポート
2	日本語の発生と発音	配布資料を読み直す
3	日本語の語彙と表現 1 語種と語彙	配布資料を読み直す
4	日本語の語彙と表現 2 比喩と意味の変化	配布資料を読み直す
5	日本語の語彙と表現 3 敬語	配布資料を読み直す、小レポート
6	日本語の文法 1 品詞と活用	配布資料を読み直す
7	日本語の文法 2 文の組み立て	配布資料を読み直す
8	日本語の文法 3 丁寧さと配慮の表現	配布資料を読み直す
9	まとめ	配布資料を読み直す、小レポート
10	日本語の文字 1 漢字表記について	配布資料を読み直す
11	日本語の文字 2 漢字の音訓、平仮名、片仮名	配布資料を読み直す
12	日本語の文字 3 仮名遣い	配布資料を読み直す、小レポート
13	日本語の歴史 1 音声と文字の歴史	配布資料を読み直す
14	日本語の歴史 2 文法の歴史	配布資料を読み直す
15	まとめ	配布資料を読み直す、小レポート

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100～90 点)：日本語の仕組みを理解したうえで、言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。また多彩な表現が使える、歴史的事実を理解している。

A (89～80 点)：日本語の仕組みを理解したうえで、自分の言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。

B (79～70 点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解したうえで、自分の言葉を客観的に観察・分析することができる。

C (69～60 点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解している。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目一表現力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	手話				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	尾関裕子				多職種連携	

講義目的

「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいのかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。

授業内容

手話の実技及び聴覚障害に関する講義

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

テキスト「今すぐ始める手話テキスト 聴さんと学ぼう！」

参考図書 なし

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	自己紹介をしてみよう一名前を手話で表す	名前の手話表現を学ぶ コミュニケーション方法について知る
2	自己紹介をしてみよう一家族の手話を表す	家族の手話表現を学ぶ
3	自己紹介をしてみよう一誕生日の手話を表す	数字の手話表現を学ぶ
4	自己紹介をしてみよう一趣味の手話を表す	趣味に関する手話表現を学ぶ
5	自己紹介をしてみよう一仕事の手話を表す	仕事に関する手話表現を学ぶ
6	自己紹介をしてみよう一住所の手話を表す	県・市町村の手話表現を学ぶ 場所の説明方法を工夫する
7	お互いに自己紹介をしよう一質問をしてみよう	手話で会話をしながら自己紹介をする 聞こえないことについて考える
8	聴覚障害者の生活を知ろう	聴覚障害者の生活について学ぶ
9	数字の手話を使って1日、1か月のことを話そう	いろいろな数の表し方を学ぶ
10	数字の手話を使って1年のことを話そう	いろいろな数の表し方を表現する 1年の行事に関する手話表現を学ぶ
11	行きたい場所のことを話そう	地名、場所や交通手段の手話表現を学ぶ
12	病院のことを話そう	体調に関する手話表現を学ぶ 聴覚障害者のことを考えてみる
13	手話の基礎知識	手話の歴史やろう者にとっての手話について学ぶ
14	災害に関する手話を学ぼう	災害に関する手話表現を学ぶと共に必要なサポートについて考える
15	学んだ手話を使って話をしてみよう	友達と楽しく手話で会話ができる

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、手話実技 30%、最終試験 60%により評価する

S (100～90 点) : 学んだ手話を使って会話ができる。聴覚障害や手話について理解できる。

A (89～80 点) : 学んだ手話を使って簡単な会話ができる。聴覚障害者の生活について理解できる。

B (79～70 点) : 自己紹介ができる。聞こえないことについて理解できる。

C (69～60 点) : 挨拶、自分の名前を手話で表現できる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	専門基本科目－人間力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	自己管理と社会規範				実践的理解	
配当学年/学期	1 /前期	単 位 数	2 必修		プロフェッショナルリズム	
担当教員	稲葉政徳、中谷こずえ、野村浩、石井英子、内藤直子				多職種連携	

講義目的		
日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。ま た、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管 理のあり方を考える。		
授業内容		
自己管理とは、自分をどう律するか、自分で自分を管理、コントロールすることを言い、看護職には、自己管理能力と共に、看護の対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。また、自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと 目的意識を持つこと 時間管理 体調の管理などがあり、どのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修することがこの科目の目的である。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルを考える。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生活のモチベーションやスキルの維持し向上して行動変容が導かれるようグループワークで他者との協働や多様な価値観の尊重を学修する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約 30 時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。		
教材		
必携テキスト 1：自己調整学習の実践、シャク、ディル、秋場大輔 訳、北大路書房？ 2007 年、(3672 円) 2：石井先生の推薦（講義の都度提示する）参考テキスト 3：母性看護学概論、森恵美、医学書院 2017 年（2400 円）		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	自己管理していく力を養う（稲葉）	なぜ自己管理をすることが必要なかを学ぶ テキスト第 1 章：p1-18
2	書き行動と自己調整について（稲葉）	書き行動の方法と自己調整について学ぶ テキスト第 2 章：p21-41
3	理解方略の相互交流について（稲葉）	学習における理解方略について学ぶ テキスト第 3 章：p43-58
4	自己モニタリングスキルについて（稲葉）	自己モニタリングとは何か？その基礎を学ぶ。 テキスト第 5 章：p89-107
5	自己効力感と自己調整について（稲葉）	自己効力感の基礎と自己調整について学ぶ。 テキスト第 7 章：p137-160
6	健康管理と岐阜保健大学における節度ある風紀について（稲葉）	本学で期待される学生像をイメージし、社会常識を確認したうえで講義に参加する。
7	自己管理とは、目標の管理と時間管理の自己管理計画、エンパワメント、セルフケア、行動変容のためには（中谷）	テキスト 1.3（1 章）で自己管理、自己効力感、行動変容モデルが本学の学修に有用であると認識する
8	グリーンのプルシード・プロセスモデル理論、ヘルスプロモーション、失敗事例から学ぶライフスキルと時間管理（中谷）	テキスト 1(0 章)・3(1 章) 熟読し各自事例を考える
9	大学生活での社会常識、多様な価値観、コミュニケーション（野村）	学生相互の価値観をコミュニケーション力で確認
10	事例：グループワーク（GW）導入とグループ化・グループダイナミクスと役割、ディベート、レポート作成と評価（中谷・野村）	グループワークのガイダンス：役割行動、グループダイナミクス、リーダーシップとメンバーシップ
11	①セルフエフィカシー事例、②モチベーション事例：GW（野村）	グループワーク、コミュニケーション能力を培う
12	③エンパワメント・セルフケア事例、④行動変容事例：GW（中谷）	グループワークの成果を発表レポート作成
13	各事例で GW 発表とディベート（石井・内藤・中谷・野村）	グループワークの成果発表
14	各事例で GW 発表とディベート（石井・内藤・中谷・野村）	グループワークの成果発表
15	事例 GW の評価、 統括	グループワーク発表レポートに学びを追記し・提出
評価方法 および評価基準		

授業の参加状況：グループワークの参加度 10%、レポート 30%、最終筆記試験 60%により評価する。

S (100～90 点)：社会規範を理解し、看護師になるための自己管理を具体的なことを理解できる。

A (89～80 点)：他者との協働を通じて、多様な価値観を具体的な行動計画を立てることができる。

B (79～70 点)：自己管理の基礎知識を理解し、自らの立場での自己管理計画を立てることができる。

C (69～60 点)：社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について理解できる。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－人間力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	健康と運動				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	羽田野正史				多職種連携	

講義目的		
体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあつては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医・科学と健康についての基礎知識を学習するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。		
授業内容		
1 スポーツ医・科学と健康について理解する。 2 ラジオ体操やスポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教材		
テキスト：なし		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ガイダンス 本講義の目的・意義及び授業展開について 体育・スポーツの概念 体育・スポーツの概念について	
2	体育・スポーツの概念 スポーツの歴史とスポーツ文化について、オリンピックについて	
3	現代のスポーツ振興施策 諸外国及び日本のスポーツ振興施策について 競技スポーツの振興について、生涯スポーツの振興について	
4	岐阜県のスポーツ振興施策 岐阜県のスポーツ推進計画について 競技力向上施策について、地域スポーツの振興について スポーツ環境の整備について	
5	運動の実践1 ラジオ体操の歴史と実践	
6	運動の実践2 ラジオ体操・ストレッチ レクリエーションスポーツの実践	
7	運動の実践3 ラジオ体操・ストレッチ レクリエーションスポーツの実践	
8	体力とトレーニング 体力について、トレーニングの原理・原則について トレーニングの種類、トレーニング方法について 疲労と疲労回復のメカニズムについて	
9	メンタルトレーニング 各種メンタルトレーニングの方法について	
10	運動の実践4 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
11	運動の実践5 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
12	運動の実践6 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
13	運動の実践7 ラジオ体操・ストレッチ スポーツの実践	
14	子どもとスポーツ 子どもの発育発達特性について トレーニングが子どもの心身に与える影響について	
15	高齢者・障害者とスポーツ 高齢化社会とスポーツについて 障害者のスポーツの変遷について	

評価方法および評価基準

出席・授業態度 50%、テスト結果 50% の総合評価による。

S (100～90 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識をよく理解し、学習や運動の実践において、リーダーシップを発揮し積極的に活動できた。

A (89～80 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識をよく理解し、学習や運動の実践において、積極的に活動できた。

B (79～70 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識を理解し、学習や運動の実践ができた。

C (69～60 点) : スポーツ医・科学と健康に関する基礎知識の学習や運動の実践に参加し、運動を行うことの重要性が理解できた。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－人間力の養成			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	地域活動と社会貢献				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	市川季夫				多職種連携	

講義目的

社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動であること、中でも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足等が活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、住民の様々な意向やニーズを直接的に把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されており、質の高い看護活動を更に深化させることにもつながることを理解する。

授業内容

変動する社会のなかで、さまざまな地域活動の実際を通して、生命と健康を守る仕事の大切さを学ぶ。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

テキスト以外に資料を配布します。テストの範囲に入ります。

教材

テキスト

平野 かよ子他編「健康と社会・生活」第4版 (株)メディカ出版 2016年 2600円＋税

参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、地域活動と社会貢献	看護師・保健師との関わりから
2	現代社会と地域	私たちの住む社会を理解する
3	現代社会と家族	近代家族とは
4	家族のゆらぎ	家族の多様化
5	社会集団と組織	フォーマル・インフォーマルな組織
6	対立と協働	なぜ対立と葛藤が起きるのか
7	地域とつながる	コミュニティとネットワーク
8	地域活動1 ボランティア①	ボランティアのすすめ
9	地域活動2 ボランティア②	ボランティア体験を語る
10	地域活動1 一人暮らし高齢者	孤独死を考える
11	地域活動2 ホームレスと	無料低額宿泊所（貧困ビジネス）は必要悪か？
12	地域活動3 無医村で	VTR「家で死ぬということ」
13	地域活動4 被災地で	キャンパスの活動
14	地域活動5 国際貢献	グローバリゼーションと社会
15	まとめ 感想文作成とグループ討議	ふりかえり

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。

S (100～90 点)：社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

A (89～80 点)：チームケアまたは、多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。

B (79～70 点)：多職種の連携のあり方、退院調整について説明できる。

C (69～60 点)：サービス提供に関し連絡することがわかる。

D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	現代の倫理				実践的理解	
配当学年/学期	1 /前期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	鷺見コト江				多職種連携	

講義目的		
現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
授業内容		
倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。		
教材		
テキスト 参考図書：講義中に指示します。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	倫理と道徳 古代ギリシア哲学を中心に	倫理とは
2	論理的判断	価値判断の方法
3	デカルトの道徳とは	学問と道徳
4	スピノザの道徳とは	自由とは
5	カントの道徳とは	欲望と義務とは
6	ベルクソンの道徳とは	社会と義務とは
7	生物学的善悪とは	本能とは
8	心理学的善悪とは	フロイトの超自我とは
9	仏教における善悪とは	煩悩とは
10	唯識思想における善悪とは	末那識とは
11	生命と倫理	医療倫理とは
12	人権と障害	優生思想とは
13	人権と看護	ユマニチュードとは
14	幸福と倫理	貧乏とは
15	育児と倫理	虐待とは
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10％、レポート 40％、最終試験 50％により評価する。		
S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している。		
B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。		
C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	心理と行動				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	岩田郁子				多職種連携	

講義目的

心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。

授業内容

社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。

これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

参考書・参考資料等：適宜、紹介します。

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第1回：オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。
2	第2回：学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。
3	第3回：記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。
4	第4回：個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。
5	第5回：動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。
6	第6回：学習過程	教授学習モデルについて理解する。
7	第7回：発達①	発達段階と発達課題について理解する。
8	第8回：発達②	認知発達理論について理解する。
9	第9回：発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。
10	第10回：適応①	不登校の問題について理解する。
11	第11回：適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。
12	第12回：発達障害①	発達障害の諸相について理解する。
13	第13回：発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。
14	第14回：集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。
15	第15回：まとめ	全体のまとめを行う。

評価方法 および評価基準

授業の参加状況 10%、レポート 20%、最終試験 70%により評価する。

S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)

A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)

B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	学習と行動				実践的理解	
配当学年/学期	1 /前期	単 位 数	2 選択		プロフェッショナルリズム	
担当教員	稲葉政徳				多職種連携	

講義目的		
学習とは何か。行動とは何か。また、学習と行動との関係は。心理学、行動科学、脳科学の観点から多様な学習と行動のプロセスを学び、人間理解へとつなげていくことを目的とする。		
授業内容		
テキストをベースとし、各々が与えられたテーマに対して自分の意見を発表したりディスカッションをしたりする時間も設けながら進めていく。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
教材		
メインテキスト（購入必須）：「行動と学習の心理学」、伊藤正人、昭和堂、2005 年 2,592 円 サブテキスト（購入は任意）：「リハビリテーションのための脳・神経科学入門」、森岡周、協同医書出版、2016 年 3,024 円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、学習とは何か (p17-26)	復習：「学習」の定義について学ぶ
2	学習研究の歴史 (p29-38)	予習：「学習研究の始まり」に目を通しておくこと。 復習：「学習心理学」に目を通しておくこと
3	反射の原理 (p41-p55)	
4	行為の原理① (p57-77)	
5	行為の原理② (p77-p93)	
6	複雑な学習① (p95-108)	
7	複雑な学習② (p109-127)	
8	学習研究の学際的領域 (p131-145)	
9	学習の基礎にある動機づけと情動 (p149-163)	
10	日常場面にみる反射の原理 (p167-174)	
11	日常場面にみる行為の原理① (p175-187)	
12	日常場面にみる行為の原理② (p188-209)	
13	社会的認知における模倣行動と心の理論の発達	
14	身体図式は空間認知によって生成される	
15	運動イメージは身体図式に基づいて生成される	
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、ディスカッション 10%、最終試験 80%により評価する。		
S (100～90 点)：能動的な学習ができており、日常生活における学習および行動について十分な理解ができています。		
A (89～80 点)：能動的な学習ができ、学習および行動についての意味づけについて理解ができています。		
B (79～70 点)：能動的学習姿勢が見られ、学習および行動についておおその理解と説明ができる。		
C (69～60 点)：指導をすれば能動的学習姿勢を維持できる。また、学習および行動について指導をうけながら理解ができる。		
D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	健康と生活				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	稲葉政徳				多職種連携	

講義目的

健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。

授業内容

スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

テキストは特に指定しない。毎回資料を配布する。

参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと
2	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙
3	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動
5	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法
6	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法
7	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法
8	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法
9	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取
10	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防
11	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング
12	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング
13	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動（健康習慣）
14	安全に生活をしていくための方法②	仕事
15	安全に生活をしていくための方法③	地域での生活と活動

評価方法 および評価基準

授業の参加状況、授業態度 10%、最終試験 90%により評価する。

S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している。

B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	岐阜県の歴史と文化				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	池田雅志				多職種連携	

講義目的		
学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニングの手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。		
授業内容		
2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探究することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくことよい。		
教材		
テキスト：無し（随時、プリント等を配布する） 参考図書：伊藤安男著 地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。
2	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。
3	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①
4	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②
5	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③
6	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④
7	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。
8	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。
9	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド 調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。
10	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①
11	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②
12	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③
13	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④
14	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。
15	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 90%により評価する。 S（100～90 点）：フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。 A（89～80 点）：しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。 B（79～70 点）：両方のフィールド調査レポート提出ができています。 C（69～60 点）：フィールド調査のレポートが一つしか出ていない D（60 点未満）：2つのフィールド調査に出席していない		

科目区分	基本教育科目－人間の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	多文化と多様性の理解				実践的理解	
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	高久道子、三浦昌子、内藤直子、市川誠一				多職種連携	

講義目的

医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる人間力を養う。

授業内容（授業の到達目標）

多文化と多様性、異文化コミュニケーションに関する文献を読み解く。

履修学生は、講義で実施されるグループワークやディスカッションに対して積極的に参加する。

履修学生は、想像力・考察力を高めるためにレポート課題を提出する。

1. 「多文化と多様性の理解」について説明できる
2. 異なる文化を尊重しようとする寛容性を獲得すると同時に、自己のもつ文化とアイデンティティを認識する
3. 異なる文化・宗教・言語等を有する人々に対する看護の在り方「異文化看護」理論の基礎的知識を獲得する

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国際社会の今日、在日外国人の医療アクセスも増加し、多文化を理解した看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう各回の授業テーマにあわせた課題の予習と復習を行う。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。レポート提出による評価方法も記載しているのでシラバスを熟読して学習を進めること。

教材

テキスト1：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円＋税）

テキスト2：「母性看護学概論」、森恵美他、医学書院（2,400円）

参考図書1：「国際看護学入門」、国際看護研究会、医学書院（2800円＋税）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、 講義「多文化と多様性の理解」のイントロダクション (高久)	世界、日本、そして私たちが住む地域でグローバル化している背景について学ぶ。多文化と多様性の定義、集団と個人がもつ多文化と多様性について掘り下げていく。 (復習：テキスト1、11-19ページ)
2	日本で暮らす外国籍の人々の背景1：「東・中央アジア地域」 (高久)	東・中央アジア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について、事例や文献等を通して学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、38-44ページ)
3	日本で暮らす外国籍の人々の背景2：「東南アジア地域」 (高久)	東南アジア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について、事例や文献等を通して学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、46-50、90-96ページ)
4	日本で暮らす外国籍の人々の背景3：「中南米地域」 (高久)	中米・南米地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情、日本での生活や健康課題等）について文献等を通して現状を学ぶ。 (予習・復習：テキスト1、58-66ページ)
5	日本で暮らす外国籍の人々の背景4：「北米、ヨーロッパ、オセアニア地域」 (高久)	北米、ヨーロッパ、オセアニア地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、母国の事情（移民国として）、日本での生活や健康課題等）について文献等を通して現状を学ぶ。
6	日本で暮らす外国籍の人々の背景5：「中東、アフリカ地域」 日本で暮らす外国籍の人々のまとめ、ふりかえり (高久)	中東、アフリカ地域出身者の背景（国籍、性別、文化、宗教、生活習慣、日本での生活や健康課題等）について文献等を通して現状を学ぶ。1から5のまとめとふりかえりをおこなう。 (予習・復習：テキスト1、11-19、90-96ページ)
7	ジェンダー、セクシュアルマイノリティ（LGBTQ） (市川・高久)	ジェンダー、セクシュアルマイノリティの定義、世界と日本における時代の動き、関連する健康問題等について文献等を用いて学ぶ。（予習・復習：テキスト1、52-56ページ）

8	ステレオタイプとスティグマ (市川・高久)	多文化・多様性に反するステレオタイプやスティグマの定義、背景、考え方、取り組みについて学ぶ。 日本独特で根深い深いテーマを事例を元に学び考察する(感染症、同和問題、優生保護法、刺青等)。 (予習・復習：テキスト1、67-76 ページ)
9	自己とアイデンティティ (高久)	「国籍」をキーワードとして、自己とアイデンティティについて学ぶ。文献等から日本独自の文化、生活習慣、健康に関する考え方を読み解く。
10	国際化社会と看護：1. 母子保健の国際化、現状と課題、意義 2. 在日外国人の：妊婦・出産・新生児ケアの文化的多様性 3. ジョイセフとリプロダクティブ、パル・アフリカ (内藤)	国際化社会の現状から異文化看護の現状と意義や課題を考える。アフリカ・ネパールの包括的性教育と出産文化について学ぶ。レポート課題あり (2週間後、事務に提出)。 (予習・復習：テキスト2、第6章、308-315 ページ)
11	異文化看護の視点：専門看護における実践 (在宅看護) (三浦)	異文化看護の視点による患者アセスメント、異文化看護の理論、日本における異文化看護の必要性について学ぶ。 「在宅看護」分野における異文化看護について事例 (文献等) をもとに理論と実践を学ぶ。レポート課題あり。
12	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践・グループワーク 1 (高久・市川)	日本で人口の多いアジア地域出身者の健康課題について、言語&非言語コミュニケーションの視点も加えて異文化看護の実践を学ぶ。グループワークの手法を学び、グループごとに課題を行っていく。 (復習：グループの課題に沿った情報収集・整理を行う)
13	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践・グループワーク 2 (高久・市川)	在日アジア地域出身者の健康課題や異文化看護を言語&非言語コミュニケーションの視点で。引き続きグループごとに課題を行い、発表資料を完成させる。 (復習：グループの課題を発表用にまとめる)
14	異文化看護：日本で暮らすアジア地域出身者に対する看護・ケアの実践 (グループワークによる課題発表) (高久・市川)	グループによる課題発表を行う (聴者による質疑応答も含めて)。
15	日本で暮らす外国籍の患者・問題を抱える人に対する看護・ケアの実践 (グループワークによる課題発表 2) 講評と総括 (高久・市川)	引き続き、グループによる課題発表を行う (聴者による質疑応答も含めて)。グループワークと課題の取り組みに対する講評・総括
評価方法 および評価基準		
課題レポート 60%、グループワーク 40% (4回の内で欠席は1回につき5点減点)、より評価する。 *課題レポート (60%) の配分については、高久・市川 (40%)、内藤 (10%)、三浦 (10%) とする。		
S (100~90 点) : 「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の実践力を獲得する。 A (89~80 点) : 「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の知識を得る。 B (79~70 点) : 「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得する。 C (69~60 点) : 「多文化と多様性」について説明できる。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	永井博式				多職種連携	

講義目的		
人体の構造と機能を細胞・組織・器官・器官系の順に学び、体の基本単位と生命活動の基本を理解する。生理学の基礎として細胞の構造と機能を学ぶことにより生命現象の本質を理解し、次いで各器官の基本的な働きと、さらに各器官の機能調節のための器官間での情報伝達について、神経および内分泌の働きを中心に分子生物学的なレベルまで理解する。各器官の個別の機能分担を理解すると同時に、各器官間の相互作用の結果生じるホメオスタシスの生理学的意義を理解する。		
授業内容		
人体を構成する各器官の基本的な構造とはたらき（機能）について、特に各器官の機能分担を学習し、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。講義と単元テストに基づく知識確認を行いながら、対面講義を中心とするが、機会を見て参加型講義を随時に取り入れていく		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
解剖生理学によく出る単語と概念を理解するために教科書を読み込むこと		
教材		
テキスト	解剖生理学	人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）
参考図書	人体機能生理学	（南江堂）
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	解剖生理学のための基礎知識	人体の階層性・細胞の基本構造と機能、細胞分裂と分化
2	細胞の代謝と機能	代謝、異化作用、同化作用 エネルギー代謝
3	細胞の分裂と機能	遺伝と遺伝子、DNA、体細胞分裂、減数分裂、卵割、胚葉
4	組織とホメオスタシス	上皮組織、結合・神経・筋組織、ホメオスタシス
5	栄養の消化と吸収ー消化器系：	食物の消化、吸収、運搬
6	呼吸器系のはたらき	呼吸運動、ガス交換、呼吸機能測定、呼吸調節
7	血液のはたらき	血液の機能、血球・血漿のはたらき
8	血液の循環とその調節	心臓、刺激伝導系、血管系、大循環、動脈血、静脈血
9	体液の調節と尿生成	腎、尿生成、腎のホメオスタシスにおける役割
10	内臓機能の調節ー神経・中枢神経・末梢神経（自律神経）	神経概論、神経細胞、中枢神経、機能分担、
11	情報の受容と処理ー神経・中枢・末梢神経（感覚神経）	自律神経、感覚神経（特殊感覚、体性感覚、内臓感覚）
12	情報の受容と処理ー神経・中枢神経・末梢神経（運動神経）	運動神経、筋の種類、筋収縮
13	内分泌器官のはたらき	内分泌器官、ホルモン
14	皮膚の機能	生体防御機能、ホメオスタシス
15	生殖と発生、老化	発生、老化
評価方法 および評価基準		
授業の参加の積極性 10%、レポート・単元テスト 10%、最終試験 80%により評価する。 S (100～90 点)：人体の器官系を有機的に結びつけた構成を説明できる。 A (89～80 点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。 B (79～70 点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。 C (69～60 点)：人体を構成する各器官の基本的な働きついてわかる。 D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッションナリズム	
担当教員	小萱康德				多職種連携	

講義目的

人体の基本的な解剖学的構成の学修は、その機能、疾病および病態の理解の礎となる。本科目では肉眼解剖学を中心に人体を構成する各器官系（骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）を学修し、さらに必要に応じて組織学的構成と発生過程を学修する。全身の運動（骨格系、筋系）と神経系の関わりを理解する。循環器系では血管系とリンパ管系の関係、体循環と肺循環、血管（動静脈、毛細血管）の構造を理解する。各内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンの働きを理解する。腎臓が有する機能の多様性を学修する。生殖器の構造の性差および相同性について、その発生過程を通して学修する。人体の発生、胚子期から胎児期に至る過程を学修し、各組織器官の発生学的由来を理解する。

授業内容

授業では板書を基軸とするが、必要に応じて配布プリントや ICT を活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業後、理解度確認のため小テストやミニレポートを実施する。

教材

テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	全身の骨と関節	人体の骨格（頭部、体幹、上肢、上肢帯、下肢および下肢帯の骨）の構成並びに骨間の関節について説明できる。
2	骨の形成と組織構造	骨の形成過程（軟骨内骨化と膜内骨化）および骨のリモデリングとそれに関わる細胞の種類と働きを説明できる。
3	骨格筋の構造と働き	骨格筋の構造（形状による分類、起始と停止）、上肢の屈筋と伸筋、下肢の屈筋と伸筋、背部と胸腹部の筋、腸腰筋、殿筋（筋肉注射）を説明できる。
4	呼吸器系	上気道（鼻腔、咽頭、喉頭）と下気道（気管、気管支、肺胞）を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。
5	消化器系	消化管の基本構造と各部位での粘膜上皮の形態的特徴を説明できる。付属消化腺（唾液腺、膵臓外分泌腺、肝臓）の組織構造を説明できる。
6	血管系とリンパ管系、心臓	血管系とリンパ管系の関係、心臓の内部構造と出入りする血管、冠状動静脈、心膜を説明できる。動脈と静脈の血管壁の構造の違いを説明できる。
7	大動脈から分枝する血管、体表で脈拍を触知できる血管	大動脈弓から分枝する腕頭動脈、左鎖骨下動脈と左総頸動脈、胸大動脈と腹大動脈から分枝する血管と分布域並びに脈拍を触知できる血管を説明できる。
8	泌尿器系を構成する各器官の組織構造	腎臓、尿管、膀胱、尿道の組織構造を説明できる。腎臓の機能の多様性をその組織構造に基づいて説明できる。
9	ヒトの初期発生の概要	受精、着床、胚盤胞、二層性胚盤、三層性胚盤（外胚葉、内胚葉、中胚葉）、体節、神経管、神経堤細胞に由来する組織等の発生過程を説明できる。
10	生殖器の発生と卵子、精子の形成	生殖器発生過程の性差と相同性を理解する。生殖細胞の発生由来と減数分裂による精子および卵子の形成過程を説明できる。
11	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンとその働き	各内分泌器官（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。内分泌と外分泌の違いを説明できる。
12	視覚器、聴覚・平衡覚器の組織構造	眼球の組織構造（強膜、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、色素上皮、脈絡膜）、蝸牛および半規管の組織構造を説明できる。
13	脳と脊髄（中枢神経）	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄そして髄膜の位置と構造を説明できる。大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と働きを説明できる。

14	脳神経と脊髄神経（末梢神経）	脳神経 12 対の線維構成と支配領域を説明できる。各脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）の支配領域と伝導路を説明できる。
15	自律神経系（副交感神経と交感神経）	副交感神経（脳仙系）と交感神経の各起始核（節前ニューロンの細胞体）と関連神経節（節後ニューロンの細胞体）並びに各神経の走行経過を説明できる。
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。 S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している。 A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している。 B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	栄養代謝学				実践的理解	○
配当学年/学期	1 /前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	森裕志				多職種連携	

講義目的

ヒトは摂食しないで生きることはいかなることもできない。ヒトは食べたものをどのように利用して生命を維持しているのだろうか。本授業では、生命の基本構造である細胞の成り立ち、遺伝子情報と細胞が生きていくための仕組み、それを維持するための栄養を解説し、それを支える栄養素についての理解を深める。

授業内容

栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本授業では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内における役割、どのように消化・吸収され、代謝されるか、さらに、酵素、ビタミン、微量元素、ホルモンの関わりを主として生化学的な観点から解説する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

教材

テキスト：わかりやすい生化学 第5版－疾病と代謝・栄養の理解のために、斉藤邦明 編集、ヌーヴェルヒロカワ 発行
参考図書：「栄養治療学」で用いられる教科書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	生体の成り立ち	個体、臓器（器官）、組織、細胞、生体を構成する物質を理解する
2	アミノ酸とタンパク質の種類と構造	アミノ酸、タンパク質の構造・役割を知る
3	酵素のはたらき	酵素とは、酵素の特性、臨床診断への利用を知る
4	糖質、脂質の種類と構造	糖質の構造・消化と吸収・代謝、脂質の構造・消化と吸収・代謝を知る
5	アミノ酸およびタンパク質の代謝	タンパク質の生合成・代謝、タンパク質の生理活性を知る
6	核酸の役割	タンパク質の生合成と遺伝子情報の関係について理解を深める
7	ホルモン、ビタミン、微量元素	ホルモンの役割と恒常性、ビタミン、微量元素の役割について理解を深める
8	消化・吸収と栄養価	栄養・栄養素とは、食品中のエネルギー量、基礎代謝について知る

評価方法 および評価基準

授業態度と小試験 20%、最終試験 80%により評価する。

授業態度、小試験、最終試験の合計点を以下のように判定する。

S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している。

A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している。

B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。

C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている。

D (60 点未満)：C のレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	人間の生殖と発達				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子				多職種連携	

講義目的		
女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとって健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。また、女性および母性の健康に影響を与える文化的小および社会的環境についても理解し、現代社会における問題や課題について、グローバルな視野で考えることをめざす。ライフサイクルの各期で生じる可能性のある健康上の問題について理解を深め、専門職者と協働した健康の保持増進のためのヘルスプロモーションについて学ぶ。		
授業内容		
到達目標 1. 種の存続としての生殖器の構造と機能について説明できる。 2. 周産期における身体的・心理社会的特性について説明できる。 3. 小児各期における身体的成長・発達、認知・発達の特徴を説明できる。 4. 老年期の心身の変化の特徴について説明できる。 5. ライフサイクルにおける生殖と発達について説明できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
テキスト 特に指定しない（授業ごとに資料を配布する） 参考図書 ・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」「系統看護学講座 母性看護学各論」、医学書院 ・坂井建雄/岡田隆夫著、「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」、医学書院 ・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論」、医学書院 ・北川公子他著、系統看護学講座 老年看護学」、医学書院 ・服部祥子著、「生涯人間発達論」、医学書院、		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	生殖を中心にみたライフサイクルの特徴	①指定された参考図書に目を通す、②配布資料を読み返す
2	男性の生殖器の構造と機能・女性の生殖器の構造と機能	①同上、②課題レポート
3	妊娠期・分娩期・産褥期の身体的特性と心理・社会的特性	①同上、②配布資料を読み返す
4	性と生殖の発達に影響する要因（家族・地域・生物学的環境・社会的文化的環境）と、生殖の過程における今日的課題	①同上、②同上
5	小児の人体構造学並びに生理学的特徴と発達評価の諸方法	①同上、②課題レポート
6	・胎児期～乳児期における心身の成長発達（愛着、親子の絆の確立） ・幼児期～学童期における心身の成長発達（発達理論、遊びや友人関係の発達、学習、道徳性）	①同上、②配布資料を読み返す
7	・思春期における心身の成長発達（第二性徴の発現、アイデンティティの模索、性役割、恋愛） ・子どもの成長発達と家族および社会・自然環境並びに今日的課題	①同上、②課題レポート
8	・老年期の心身の変化の特徴と、老年期の性に関する今日的課題 ・全ライフサイクルにおける生殖と発達についてのまとめ	①同上、②配布資料を読み返す
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。 S（100～90点）：学習目標をほぼ完全に達成している（excellent） A（89～80点）：学習目標を相応に達成している（berry Good） B（79～70点）：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C（69～60点）：学習目標の最低限は満たしている（pass） D（60点未満）：Cのレベルに達していない（Failure）		

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅰ（成人A）				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	河田美紀				多職種連携	

講義目的

看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、アレルギー免疫、腎泌尿器疾患の病態を理解する。

授業内容

疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

教材

テキスト 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 2 3 4 6 8 11

参考図書 ノーベルヒロカワ 臨床病態学1～3巻

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	呼吸器疾患①	呼吸器感染症
2	呼吸器疾患②	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患
3	呼吸器疾患③	肺癌、肺塞栓症、気胸
4	循環器疾患①	虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
5	循環器疾患②	心不全、不整脈
6	循環器疾患③	弁膜症、先天性心疾患、
7	循環器疾患④	心筋症、心移植、大動脈疾患
8	血液疾患①	貧血疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血）
9	血液疾患②	白血病、出血性疾患
10	内分泌疾患①	下垂体疾患、甲状腺疾患
11	内分泌疾患②	副甲状腺疾患、副腎疾患
12	代謝性疾患	糖尿病、脂質異常症
13	免疫・膠原病	膠原病（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症） HIV 感染症
14	腎・泌尿器疾患①	急性腎不全、慢性腎不全、人工透析、腎移植
15	腎・泌尿器疾患②	ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、前立腺肥大、尿失禁、 尿路結石

評価方法 および評価基準

定期試験成績100%により評価する。

S (100～90 点)：講義目的の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。

A (89～80 点)：講義目的の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。

B (79～70 点)：講義目的の内容の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。

C (69～60 点)：講義目的の内容のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。

D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人B）				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀、河田好泰				多職種連携	

講義目的		
（概要）看護の対象である人間についての疾患、治療についての基礎的知識を多面的かつ包括的に修得することを目的とする。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆膵の代表的な疾患に加え、脳神経外科学、乳腺疾患、皮膚科学、整形外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学における代表的な疾患の病態を理解し、適切な検査、診断、治療、予防法および予後について学ぶ。それぞれの障害が日常生活とどのような関連があるかを考え、健康から疾患に至る変化のプロセスを理解する。 （オムニバス方式 全15回） （1 河田美紀／12回） 消化器・肝胆膵疾患、脳神経外科学、乳腺疾患、皮膚科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学における代表的な疾患における疾患の病因、症状、検査、治療 （46 河田好泰／3回） 運動器疾患（整形外科学）における特徴的症狀や特徴的な疾患（外傷、変形性関節症、骨腫瘍、脊椎疾患、関節リウマチ等）の病因、症状、検査、治療		
授業内容		
疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		
教材		
テキスト 系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学 5, 7, 9, 10, 12, 13, 14, 15（医学書院）		
参考図書 ノーベルヒロカワ 臨床病態学1～3巻		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	運動器疾患①	外傷性疾患（骨折・脱臼・捻挫・神経筋の損傷等）
2	運動器疾患②	先天性疾患、骨関節の炎症性疾患、腫瘍
3	運動器疾患③	代謝性骨疾患、筋・腱・神経・脊椎の疾患
4	消化器疾患①	食道疾患（食道癌）、胃疾患（胃潰瘍・胃癌）
5	消化器疾患②	小腸・大腸疾患（腸閉塞、炎症性疾患、大腸癌）
6	消化器疾患③	肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌）
7	消化器疾患④	胆のう疾患（胆石症）、膵疾患（急性膵炎、膵臓癌）
8	脳神経系疾患①	脳血管障害（脳出血・くも膜下出血）、頭部外傷
9	脳神経系疾患②	脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）
10	脳神経系疾患③	脳腫瘍、筋疾患、脱髄・変性疾患、感染症
11	乳腺疾患	乳癌、乳腺症
12	皮膚科疾患	接触性皮膚炎、じんま疹、白癬症、皮膚癌、褥瘡、熱傷
13	眼科疾患	白内障、緑内障、網膜疾患
14	耳鼻咽喉科疾患	鼻アレルギー、副鼻腔炎、中耳炎、メニエール病、喉頭癌
15	歯科・口腔外科疾患	齲蝕、口腔領域の疾患
評価方法 および評価基準		
定期試験 100%により評価する。		
S（100～90点）：講義目的の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。		
A（89～80点）：講義目的の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。		
B（79～70点）：講義目的の内容の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。		
C（69～60点）：講義目的の内容のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。		
D（60点未満）：Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目－社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	保健統計学				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	市川誠一				多職種連携	

講義目的		
国民の健康、生活衛生の動向を把握するために国レベルの統計データの解説や関連する健康指標について学修する。「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を理解する。		
授業内容		
「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口動態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査から国民の生活と健康の特徴を把握する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要である。講義配布資料の内容は教材で確認し、学習すること。		
教材		
テキスト 財団法人 『厚生統計協会 国民衛生の動向』 最新号、2315 円＋税 参考図書 福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学、南山堂、2400 円＋税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義の目標と内容について 人口動態統計 国勢調査・日本の人口・世界の人口	人口動態統計に基づく日本の最新の人口統計および世界の人口統計の特徴を理解する。
2	人口動態統計 出生の動向と死亡の動向	人口動態統計の概要、出生の動向、出生に関連する指標、死亡に関連する指標、日本と世界の人口の動向を理解する。
3	人口動態統計 死亡の動向（粗死亡率・年齢調整死亡率）	死亡の動向に関連する指標として、粗死亡率、年齢調整死亡率、標準化死亡比を理解する。
4	人口動態統計 主要死因とその動向	主な死亡原因とその動向（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）、外因死の動向、日本と世界の相違について理解する。
5	人口動態統計 妊娠・出産関連と乳児死亡	妊娠から出産、養育における動態統計の指標（死産、乳児・新生児死亡、妊産婦死亡、周産期死亡等）の日本と世界の動向を理解する。
6	人口動態統計 平均余命・平均寿命・死因分析	生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命について日本と世界の動向を理解する。特定死因と平均寿命との関連、健康寿命に関連する要因から看護職者の役割を理解する。
7	健康状態と受療状況 国民生活基礎調査・患者調査	国民生活基礎調査、患者調査が示す国民の健康状況、外来・入院の受療状況を理解し、保健医療が抱える課題、看護職者の役割を理解する。
8	生活習慣と健康 飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等	国民健康・栄養調査が示す国民の食生活、喫煙、飲酒等の状況を理解し、これらの要因の改善、疾病予防における看護職者の役割を理解する。
評価方法 および評価基準		
授業の参加状況 10%、レポート 10%、最終試験 80%により評価する。 S (100～90 点)：保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 A (89～80 点)：保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 B (79～70 点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。 C (69～60 点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育関連科目－社会と環境の理解			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	保健医療福祉行政論				実践的理解	
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	原田裕子				多職種連携	○

講義目的			
日本における社会保障・社会福祉の歴史および制度、それぞれの制度が果たしている役割について学修する。また、保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。さらに、住民の基本的な権利としての権利「健康」をサポートするために、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。			
授業内容			
看護職として必要な保健・医療・福祉の制度について学び、厚生行政のシステムを理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
日頃から身近な地域や国内で起こっている保健医療福祉の動向に関心を持って講義に積極的に臨むこと。毎回の授業後には関連する法律も含めて復習をしておく。この科目の単位を取得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修が必要である。			
教材			
テキスト ①系統看護学講座 健康支援と社会保障④「看護関係法令」最新版 医学書院 ISBN978-4-260-03449-4 2,400 円 参考図書 ②国民衛生の動向 最新版			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	法の構造、厚生行政のしくみ	法の構造を説明できる。医療法を理解できる。チーム医療の枠組みを概観できる。地域医療構想を概観する。	
2	人に関する法律	保健師助産師看護師法を理解し役割を説明できる。その他医療や福祉の専門職を理解できる。（予習）第2章、第3章Bをよく読み授業に臨む。	
3	地域保健法等	公の責任で実施される地域保健の構造を理解し説明できる。（予習）第4章Aをよく読み授業に臨む。	
4	健康増進、難病等	健康増進、難病等に対する政策について理解できる。（予習）第4章A②、B⑤～⑩をよく読み授業に臨む。	
5	感染症に関する法律	感染症対策について施策の理解し説明できる。予防接種対策や検疫についても理解できる。（予習）第4章Cをよく読み授業に臨む。	
6	母子保健・児童福祉に関する法律	少子高齢化社会での母子保健の制度を理解し説明できる。母子保健や児童福祉行政を理解できる。（予習）第4章B②③、第8章Bをよく読み授業に臨む。自分の母子手帳に目を通して置く。	
7	学校保健に関する法律	学校保健の仕組みを理解できる。学校感染症について理解できる。（予習）第4章B④をよく読み授業に臨む。	
8	障害者に関する法律	障害者総合支援法を中心に身体・知的・精神障害施策の枠組みを概観できる。（予習）第8章Dをよく読み授業に臨む。	
9	社会福祉に関する法律	老人福祉法等を概観できる。成年後見制度を理解できる。（予習）第8章A、Cをよく読み授業に臨む。	
10	社会保険、労働政策に関する法律	健康保険・年金制度、労働法の概要を説明できる。（予習）第7章（A④を除く）、第9章Aをよく読み授業に臨む。自分の健康保険証を確認する。	
11	介護保険、地域包括ケアシステム	高齢化への対応として生まれた介護保険制度の仕組みを理解し説明できる。（予習）第7章A④をよく読み授業に臨む。	
12	食品安全、環境政策に関する法律	食中毒・食品衛生管理・食の安全に係る制度や施策を理解できる。公害を契機に展開してきた規制に関する法律や環境基本法および地球環境を保護するための法律を概観できる。（予習）第4章D、第6章、第10章をよく読み授業に臨む。	
13	グループワーク	保健医療福祉行政論で学んだ領域やそれに係るデータから自分たちの生活と結びつく事例を考え、その事例を基に活用できる法律や制度を考えることができる。	

14	ミニ模擬授業	保健医療福祉行政論で学んだ領域やそれに係るデータから自分たちの生活と結びつく事例を考え、その事例を基にした法律や制度、その活用をまとめ発表することができる。
15		
評価方法 および評価基準		
課題レポート発表 40%、最終試験 60%により評価する。 S (100～90 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。 A (89～80 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を解釈できる。 B (79～70 点)：保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。 C (69～60 点)：保健医療福祉行政論の基本的な概念と、用語などに関する基本的事項について理解している。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシー を達成するため に必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	看護学概論				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子				多職種連携	○

講義目的		
これから学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象者とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解して、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようにする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。		
授業内容		
看護とは何か、看護に必要な知識を身につけ、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、根拠に基づいた看護実践の必要性を教授する。		
到達目標 ①看護の本質が理解できる。②健康のとらえ方が理解できる。③主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。④看護の対象、看護の場、看護の機能と役割が理解できる。⑤保健・医療・福祉提供システムと看護、チーム医療の重要性が理解できる。⑥看護専門職としての課題と、これからの展望を述べるができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行い、次の授業に備える。		
2 自身の感性を大切にし、素直に表現する努力と友達づくり、クラス間の学習意欲の高揚に努める。		
3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。		
教材		
テキスト	特に指定なし	
参考図書	1. ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論, メディカ出版	
	2. 看護学概論－看護とは・看護学とは一, ヌーヴェルヒロカワ	
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 看護とは	① 看護のイメージ ②看護の責務 ③看護の本質
2	専門職としての看護	① 看護の定義 ②看護の理論家たち
3	看護の対象の理解 1	① 統合体としての人間 ②個人、家族、コミュニティ、地域社会
4	看護の対象の理解 2	① 健康障がいをもつ対象の理解 ②ストレスと適応 ③人間の暮らし
5	健康のとらえ方	① 健康の定義 ②障がいの定義 ③社会状況の変遷と健康観の変化
6	看護の歴史的変遷 1	① 原始～古代～中世～近代の看護 ②ヨーロッパ、アメリカの看護
7	看護の歴史的変遷 2	日本の看護
8	看護の機能と役割 1	① 看護の目標 ②看護の活動
9	看護の機能と役割 2	① 看護の機能と役割 ②医療チームの中の役割
10	職業としての看護	① 看護の専門分化 ②看護職養成制度
11	看護倫理とは 看護用語	① 倫理学と看護学 ②看護と倫理の関係 ③価値と QOL ④看護用語
12	看護における法的側面	① 看護実践と医療安全 ②医療の質保証と医療過誤
13	日本の看護教育	① 看護教育の歴史的変遷 ②看護教育とキャリア開発
14	保健・医療・福祉提供システムと看護	① 看護の継続性 ②保健・医療・福祉サービスと看護活動
15	看護の課題と展望	① 看護に求められる教育 ②専門職としての看護組織
評価方法 および評価基準		
筆記試験 80%、レポート 10%、受講態度 10%により評価する。		
S (100～90 点) : 保健・医療・福祉提供システムと看護について理解し、看護専門職としての課題と展望について自分の意見を述べる（記述する）ことができる。		
A (89～80 点) : 看護の機能と役割、保健・医療・チーム医療の重要性が理解できる。		
B (79～70 点) : 健康のとらえ方が理解でき、看護の対象が理解できる。		

C (69～60 点) : 主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子				多職種連携	○

講義目的

看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる、生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。

授業内容

コミュニケーション技法（基本的かわり技法）、感染防御（スタンダードプリコーション、手袋・ガウンの着脱法）、ベッドメイキング（リネン類のたたみ方、オープンベッド・クローズドベッドの作製法）を教授する。
到達目標 ①基本的かわり技法を通して援助的対人関係について理解できる。 ②感染予防の意義と手指消毒の必要性を述べるができる。 ③オープンベッドとクローズドベッドの基本に基づいたベッドを作製することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
2. 演習の欠席はその単元が履修できないことになるため注意する。（原則、欠席者に対する単元履修の対応は行わない。）
3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。
4. 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。
5. 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。

教材

テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、サイオ出版
3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、サイオ出版
参考図書 看護コミュニケーション基礎知識と実際一、教育出版

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 看護援助方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの構成と内容との関連性について	看護援助方法論Ⅰ（前期）、看護援助方法論Ⅱ・Ⅲ（後期）の内容（講義）
2	生活行動援助技術と診療に伴う援助技術とは	① 看護技術援助の意義と必要性 ②看護職が実践援助に必要な援助技術（講義）
3	コミュニケーションとは1	① コミュニケーションの構成要素 ②コミュニケーション技（講義）
4	コミュニケーションとは2	① 好感、信頼感を高めるコミュニケーション ②敬意を伝えるコミュニケーション ③自己理解と他者理解 ④効果的なコミュニケーション（講義）
5	基本的かわり技法1	場面設定によるコミュニケーション技法（演習）
6	基本的かわり技法2	場面設定によるコミュニケーション技法（演習）
7	環境調整技術1	① 環境とは ②環境アセスメント ③病床環境の調整 ④対象者の生活の場の必要条件（講義）
8	環境調整技術2	① 環境を整える技術 ②テリトリーと個人空間 ③病院・病棟の構造設備（講義）
9	感染防御1	① 感染防御に必要な基礎知識 ②感染症に関する法律（講義）
10	感染防御2 看護実習室の使用方法	① 感染防御アセスメント ②2階看護実習室にて使用法の説明（講義）
11	衛生学的手洗い法1	① 標準予防策 ②ディスポーザブルエプロンの着脱法 ③手袋の着脱法（演習）
12	衛生学的手洗い法2	① 標準予防策 ②ディスポーザブルエプロンの着脱法 ③手袋の着脱法（演習）
13	ベッドメイキング1	① リネン類・タオル類のたたみ方 ②オープンベッドの作製法 ③クローズドベッドの作製法（演習）
14	ベッドメイキング2	オープンベッド・クローズドベッドの作製法（演習）

15	ベッドメイキング3	オープンベッド・クローズドベッドの作製法（演習）
評価方法 および評価基準		
筆記試験 50％、技術到達状況 40％、受講態度（レポート提出含む）10％により評価する。 S (100～90 点)：感染予防の意義、病床環境調整の意義を述べる（記述する）ことができる。 A (89～80 点)：手指衛生の必要性、患者用ベッドの基本に基づいた作製と必要性が理解できる。 B (79～70 点)：相手の立場に立って物事を考える姿勢があり、援助的対人関係について理解できる。 C (69～60 点)：グループ学習の中に浸透し、積極的に意見交換に参加できる。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子				多職種連携	○

講義目的

看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について学内の実習室にて演習を行う。具体的には、衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取り扱い、防御用具装束ベッドメイキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車いすへの移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。

授業内容

活動・休息援助技術、食事・排泄援助技術、清潔援助技術について教授する。

到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。
2. 演習の欠席はその単元が履修できないことになるため注意する。（原則、欠席者に対する単元履修の対応は行わない。）
3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。
4. 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。
5. 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。

教材

テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、メディカ出版
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、サイオ出版
3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、サイオ出版

参考図書

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 活動・休息援助技術 1	① 基本的活動の援助 ②体位の安定性 ③良肢位 ④人間工学とボディメカニクス（講義）
2	活動・休息援助技術 2	① 体位変換の原理・法則 ②移乗と移送の意義と必要性 ③杖歩行 ④休息と睡眠への援助（講義）
3	体位変換法 1	4つの体位変換法（演習）
4	体位変換法 2	4つの体位変換法（演習）
5	移乗と移送法、ベッド上臥床患者のリネン交換 1	① 車椅子利用による移乗と移送 ②ストレッチャー使用による移乗と移送 ③杖歩行（演習）
6	移乗と移送法、ベッド上臥床患者のリネン交換 2	① 車椅子利用による移乗と移送 ②ストレッチャー使用による移乗と移送 ③杖歩行（演習）
7	食事援助技術	① 人間にとっての栄養と食事の必要性 ②食欲と空腹感 ③栄養状態の評価 ④消化と吸収 ⑤非経口的栄養法（講義）
8	排泄援助技術	① 排泄の意義 ②排泄の生理 ③排尿・排便の異常
9	経口摂取援助法	ベッド上臥床患者の食事援助、口腔ケア（演習）
10	排泄援助法	ベッド上臥床患者の排泄援助（演習）
11	清潔援助技術 1	① 身体清潔の意義と必要性 ②皮膚の生理作用（講義）
12	清潔援助技術 2	① 清潔法の種類（講義）
13	清拭法と寝衣交換法 1	部分清拭と寝衣交換（体位変換法含む）（演習）
14	清拭法と寝衣交換法 2	部分清拭と寝衣交換（体位変換法含む）（演習）
15	洗髪法と足浴法	① 洗髪 ②足浴（演習）

評価方法 および評価基準

筆記試験 50%、技術到達状況 40%、受講態度（レポート提出含む）10%により評価する。

S (100～90 点)：対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができ、それを述べる（記述する）ことができる。

A (89～80 点)：科学的根拠に基づいた看護技術を説明できる。

B (79～70 点)：原理・原則に基づいた看護基本技術が実施できる。

C (69～60 点)：場面に対する安全と安楽について理解できる。

D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子				多職種連携	○

講義目的		
本科目では、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防の技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。		
授業内容		
感染防御の技術、安楽を促す援助技術、与薬と看護、呼吸を整えるための看護、排泄の援助技術について教授する。 到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義・演習により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。 2 演習の欠席はその単元が履修できないことになるため注意する。（原則、欠席者に対する単元履修の対応は行わない。） 3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。 4. 技術到達状況の確認は技術チェック日を別に設けて行う。 5. 看護実習室は空いていれば技術練習のために使用することは可能である。事前に教員に申し出て使用許可を得る。		
教材		
テキスト	1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術，メディカ出版 2. 看護技術 講義・演習ノート上巻，サイオ出版 3. 看護技術 講義・演習ノート下巻，サイオ出版	
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	授業の概要・授業の進め方 感染と感染防止技術 1	① ガウンテクニック ②滅菌手袋の装着 ③滅菌物の取り扱い（演習）
2	感染と感染防止技術 2	② 創傷処置（演習）
3	診察と看護、検査と看護	① 診療における基礎知識と看護師の役割 ②検査における基礎知識と看護師の役割 ③検体の取り扱い（講義）
4	安楽を促す援助技術	電法による有効な援助法について（講義）
5	電法による援助	① 冷電法 ②温電法（演習）
6	創傷保護の技術	包帯法（演習）
7	与薬と看護 1	① 薬物療法の基礎知識 ②薬物療法と看護師の役割（講義）
8	与薬と看護 2	① 注射法の基礎知識 ②注射の種類と適応 ③薬物療法時の援助法（講義）
9	与薬の技術 1	① 注射針の種類 ②シリンジ、真空採血管の取り扱い ③注射液の吸い上げ（演習）
10	与薬の技術 2	① 皮下注射法 ②筋肉内注射法（演習）
11	与薬の技術 3	② 採血法 ②注射法（静脈内注射、点滴静脈内注射）（演習）
12	呼吸を整えるための看護	① 酸素吸入 ②吸引（講義・演習）
13	排泄の援助技術	導尿法と浣腸法（講義・演習）
14	医師の指示による排泄援助技術 1	導尿法
15	医師の指示による排泄援助技術 2	浣腸法
評価方法 および評価基準		
筆記試験 50%、技術到達状況 40%、受講態度（レポート提出含む）10%により評価する。 S (100～90 点)：対象者の安全・安楽を踏まえた考察ができ、それを述べる（記述する）ことができる。 A (89～80 点)：科学的根拠に基づいた看護技術を説明できる。 B (79～70 点)：原理・原則に基づいた看護基本技術が実施できる。 C (69～60 点)：場面に対する安全と安楽について理解できる。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	看護理論				実践的理解	○
配当学年/学期	1/後期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子、三浦昌子、内藤直子、野田みや子、臼井キミカ				多職種連携	○

講義目的		
(概要) 看護理論家たちが「看護とは何か」を問い、探求し、その結果を著した看護の本質論である看護理論に接する。看護理論の発達、理論の発達過程、年代に沿って主たる理論家とその理論概要を紹介する。看護実践に必要な主な看護理論を取り上げ、その理論について考察する。成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学のそれぞれの領域における看護理論について学び、将来の看護実践につなげる。 (オムニバス方式 全8回) (7 山本澄子/4回) 主要な看護理論について教授する。 (16 三浦昌子/1回) 成人看護学の主な看護理論について教授する。 (8 内藤直子/1回) 母性看護学の主な看護理論について教授する。 (4 野田みや子/1回) 小児看護学の主な看護理論について教授する。 (2 臼井キミカ/1回) 老年看護学の主な看護理論について教授する。		
授業内容		
看護の先行研究とクリティーク、看護理論との関連性について探求する。看護理論は看護実践の裏付けとなる考え方の枠組みを示すものであり、人間・環境・健康・看護の基礎的概念を理解することにより、科学的思考を基盤とした看護実践基礎能力が身につくよう教授する。 到達目標 ①先行研究論文に対するクリティークの必要性が理解できる。 ②先人の看護理論を学習し、それぞれの特性について説明できる。 ③看護学に共通する基本的概念と看護理論との関連性について理解できる。		
留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)		
1. シラバス内容から講義予定されている部分の事前学習をテキストから学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、授業時の配布資料、自身のメモの見直しを行う。 2 本授業科目はオムニバス方式であるため、シラバスによる次回担当教員の確認を行い、テキスト等指示された準備物の忘れ物がないように注意して授業に臨む。 3. 10分以上3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。		
教材		
テキスト①はじめての看護理論, 医学書院, テキスト②あっそうか! ロイとゴートンで母性小児看護過程 11 事例, 改訂版, 2017, ふくろう出版,		
授業計画および学習課題 (予習・復習)		
回	内 容	学習課題 (予習・復習)
1	授業の概要・授業の進め方 看護理論とは	① 看護研究論文と看護理論家 ②看護活動と看護理論家
2	看護実践上の倫理的概念	①看護実践における倫理的概念と倫理的行動の規律 ②看護実践における倫理的分析と意思決定 ③クリティークの意義
3	看護理論の分類	① 看護理論の分類と特徴 ②看護理論と看護過程
4	看護理論家の例	① フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン
5	成人看護学の主な看護理論について	
6	リプロダクティブヘルス, 母性と父性, 母子相互, セルフケア, ウエルネス, ロイ適応看護論, ストレス, 家族看護論 (内藤)	テキスト②2-19p ロイ適応理論を予習, リプロダクティブヘルスや自分の考える母性と父性につき後日レポート提出
7	小児看護に活用できる理論・看護学実習で活用できるアプローチ	① ヒルデガード・E・ペブロウ “対人関係理論” ② ドロセア・E・オレム “セルフケア不足看護理論”
8	高齢者看護に活用できる理論・アプローチ (健康の概念, ライフストーリー, エンパワーメント) (臼井)	健康とはどのようなことを言うのかをインタビューして, 講義に参加していただきたい。
評価方法 および評価基準		
筆記試験 75% (山本 35%、成人・老年・母性・小児各 10%)、レポート 15%、受講態度 10%により評価する。 S (100～90 点) : 看護学に共通する基本的概念と看護理論の関係性について理解できる。 A (89～80 点) : 先人の看護理論のそれぞれの特性について説明できる。 B (79～70 点) : 積極的に先人の看護理論を学習することができる。 C (69～60 点) : 先行研究論文に対するクリティークの必要性がわかる。 D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	○
授業科目名	看護倫理				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	川北美枝子、内藤直子				多職種連携	○

講義目的						
あらゆる発達段階、健康レベル、生活の場にある人々の健康で幸福な生活の実現に貢献することを使命とし、倫理の重要性、倫理に関する理論や倫理原則、思考方法を学ぶ。生命、人の尊厳を尊重することができ、看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史を通して、倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる。看護師のプロフェッショナルリズムを高めるための方法を学び、事例を展開させながら検討・発表会を行う。						
授業内容						
看護倫理学では、看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察することによって、倫理的感受性、倫理観を高めることを目指している。実際には、学生は、倫理の意義、看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）、対象の意思決定を支える看護職の倫理的意思決定、患者の権利を護ることに焦点をあてた事例検討を行い、倫理的感受性を養うと共に倫理観を培う。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
看護実践では、看護倫理は重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマにあわせた課題に対して学修をしておく。そのためこの科目の単位を修得にはおよそ15時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行う。						
教材						
テキスト：必携図書 看護倫理、宮坂道夫、石原逸子他、系統看護学講座 別巻 2018年改定版、価格：1,944円 他は授業で適時に紹介する。						
授業計画および学習課題（予習・復習）						
回	内 容			学習課題（予習・復習）		
1	看護倫理を学ぶために・なぜ倫理を学ぶのか 倫理学の基本的な考え方①倫理とは何か、②倫理理論、③他者理解と対話のための理論、生命倫理とはなにか、①生命倫理とは何か ②生命倫理の理論、③生命倫理と看護職の責務 川北			第1章：看護概論で学習する「看護とは」を各自考えて、講義を受ける 第2章：第1章の復習で読んでおく倫理とは何か、生命倫理についてまとめをする。（p2～P39）		
2	看護倫理とは何か ①倫理を学ぶ意義と歴史、②看護の倫理原則、 ③看護実践上の倫理的概念、④看護実践と倫理 専門職の倫理 ①社会から見た倫理、②専門職に求められる倫理、 ③専門職の倫理綱領、④看護業務基準と倫理実践、 ⑤保健師助産師看護師法と倫理 *課題を提示* 川北			第6章：第2章を読んでおく看護倫理、歴史、専門職の倫理的責任について事前学習（p96～P115） 第7章：ICN・日本看護協会が出版している倫理綱領を熟読し、看護師の責務をまとめる。（p224～P226）		
3	倫理問題のアプローチ、 ①看護実践における倫理的問題の特徴、②倫理的問題へのアプローチ・Jonsenの臨床4分割法、サラ・フライ、ナラティブアプローチ、レストらの分析モデルについて学習する。川北			第8章：倫理的問題へのアプローチでJonsenの臨床検討について学習する。（p140～P147） サラ・フライ、ナラティブアプローチ、レストの事前と事後の学習（p150～P161）		
4	事例分析1：Jonsenの臨床4分割法を用いて・事例によるグループ討議をする。川北			第10章：臨床検討シートのケアの4相でグループ討議を行う前に課題検討（p202～P206）		
5	事例分析2： 検討シートに基づき事例を分析し、各グループ発表をする 提示した課題レポートを提出する。 川北			第10章：枠組みを用いてグループ討議をする。 グループ討議では、自分の考え方を相手に伝えて傾聴する姿勢を身につける。		
6	性と生殖の生命倫理 ①性の生命倫理、②生殖の生命倫理を学ぶ 死の生命倫理、 ①死について、②死と医療、③死への生命倫理の課題、 内藤			第3章：性と生殖の生命倫理および 第4章：死の生命倫理について事前学習 （p42～P71）		
7	先端医療、①移植医療の歴史と現状②再生医療の歴史と現状 ③遺伝子医療の歴史と現状、④医療資源と医療保険制度 事例分析3：トンプソンの意思決定モデルについて10のステップの理解・分析方法・事例分析*課題を提示* 内藤			第5章：先端医療と制度を事前学習（p74～P90）、 第10章：トンプソンの意思決定モデルの分析方法の事前事後学習（p147～P150） （p207～P213）		

8	看護研究の倫理、 ①看護職と研究倫理、②研究における倫理的問題 ③倫理的配慮の要点、④看護研究に必要な倫理的配慮 <u>* 提示した課題レポートを提出する。</u> 内藤	第 9 章：看護研究の倫理とその要点を熟読する。 (P164～P179)
評価方法 および評価基準		
課題レポート 30%、最終試験 70%により評価する。 A (80～100 点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について十分に説明でき、自己の課題を明確にすることができる。 B (79～70 点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について概ね 説明でき、自己の課題を概ね理解できる。 C (69～60 点)：看護倫理の基本的な理論や原則、方法について不十分ながら説明でき、基礎を培う努力ができる。 D (60 点未満)：C のレベルに達していない。		

科目区分	専門教育科目－看護の基本			ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	
授業コード					ケア・スピリット	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/学期	1/前期	単 位 数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子、野田みや子、高木繁子、石田美和、森口信子、野村浩、樺田恵子				多職種連携	○

講義目的
本実習科目では、入院生活を送る患者との関わりの実際を見学し、保健・医療分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。同時に看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。

授業内容
この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面をもつものである。看護を学ぶ者としての自覚と看護者の倫理綱領に則った責任ある行動の自覚が大切である。
到達目標 ①医療の分野における看護職者の役割が説明できる。 ②医療の分野における看護の機能を説明できる。 ③看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた行動ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
（例： 既定のユニフォームを着用しない、髪の色・装飾品・靴下の色等教員の注意を無視する 等）
2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で臨む。
3. 実習は原則欠席しない。出席回数が規定に達しない者は評価対象外とする。

教材
テキスト
参考図書
授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
実習は「基礎看護学実習Ⅰ」実習要項に則って実施する。		

評価方法 および評価基準
実習内容・実習記録 90%、受講態度 10%により評価する。
S (100～90 点)：医療分野における看護職者の位置づけ、役割を説明できる。
A (89～80 点)：医療の分野における看護の機能を説明できる。
B (79～70 点)：入院生活を送る患者に対する看護援助の実践が理解できる。
C (69～60 点)：看護を学ぶ者としての倫理的実習態度と自覚をもつことができる。
D (60 点未満)：Cのレベルに達していない。